

アフタースクール事業概要

1. 事業名称：放課後学習プログラム

2. 目的

最終目的：子どもたちの考える力の向上
(自分の考えで判断、決断、行動できる子どもたち)

中間目標：子どもたちの知的好奇心が高まる
(色々な事に興味・関心・疑問を持ち気付きを持つ子どもが多くなる)

3. 子どもたちが得る効果

- ・興味・関心を持った事に集中して取り組む事ができる
(自ら学ぶ主体性・学習意欲・集中力・自信)
- ・自分の考えやアイデアを表現できる
(コミュニケーション力・伝える力・聞く力・協調性・創造力・発想力)

4. 事業の対象：小学生

5. 実施背景

少子化の中で子育てしやすい地域づくり、質の高い教育サービスの提供は極めて重要であり、これらは多くの保護者にとっても重大な関心事である。本事業では「①児童の知的好奇心を育む、②放課後学習プログラムの、③協働による開発と展開」という4つの要素を持つ放課後学習プログラムを清水町において実施する。このような4要素を持つ戦略に着目したのは、これが上記のような重要な地域の政策ニーズと保護者のニーズに沿うものであるという理由の他に、以下のような理由からである。

①文部科学省が進める「考える力」育成政策の具体化

次期学習指導要領に関する答申では生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」が重視されている。すなわち、「考える力」の育成である。しかし、「考える力」の育成には、学習する子

供たち一人ひとりが、自ら問題を発見することができ、学びたいという興味や関心、「知的好奇心」を持たなければ、子供たちの思考力・判断力・表現力等、「考える力」の育成には繋がらない。そこで、「知的好奇心」を育む具体的なプログラムが必要である。

②国が進める「新・放課後子ども総合プラン」の具体化

国が推進している「新・放課後子ども総合プラン」に必要なのは放課後児童クラブなどの受け皿整備や総合的運営だけでなく、実際にどのような「体験や活動」の機会を与えるのか、放課後の児童対策を重視している。そこで、放課後の時間を使って清水町独自の「知的好奇心」を育む子ども育成プログラムを展開する。

③協働による政策マネジメントの進展

今後の公共的サービスは行政だけでなく、地域の各種の主体、特に NPO、地域団体、地域の人々との協働によって大きな成果を創出することが期待されている。放課後学童に関するプログラムの運営は、極めて多忙な小学校教職員に過重な負担を掛けることなく、地域主体の協働によってあらたな子ども育成活動を展開する絶好の機会となりうる。

6. 事業内容

STEAM 教育を中心に論理的思考や問題解決能力をみにつけさせ、子どもたちの無限な可能性を伸ばす探究型体験学習プログラムになります。

※STEAM 教育とは、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)。アート (Art)、数学 (Mathematics) の 5 つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育方法である。

知る(探究)とつくる(創造)のサイクルを生み出す、分野横断的な学びです。体験の中でさまざまな課題を見つけ、クリエイティブな発想で問題解決を創造、実現していくための手段を身につけます。社会とテクノロジーの関係がますます密接になっていくこれからの AI 時代、この 5 つの領域の理解と学びを具体化する能力がますます必要となる。